



平成30年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年8月8日

上場会社名 アドアーズ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4712 URL http://www.adores.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 明珍 徹
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 大出 悠史 TEL 03 (5843) 8888
 四半期報告書提出予定日 平成29年8月9日 配当支払開始予定日 ——
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第1四半期の連結業績（平成29年4月1日～平成29年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第1四半期	4,597	△18.1	36	△86.2	30	△87.2	12	△85.2
29年3月期第1四半期	5,611	2.5	265	—	235	—	84	—

(注) 包括利益 30年3月期第1四半期 12百万円 (△84.5%) 29年3月期第1四半期 83百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第1四半期	0.09	—
29年3月期第1四半期	0.60	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第1四半期	21,903	9,588	43.7	68.78
29年3月期	21,771	9,714	44.6	69.69

(参考) 自己資本 30年3月期第1四半期 9,576百万円 29年3月期 9,703百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	0.00	—	1.00	1.00
30年3月期	—	—	—	—	—
30年3月期(予想)	—	0.00	—	1.00	1.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成30年3月期の連結業績予想（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	20,000	△10.5	850	6.7	750	9.2	450	113.8	3.23

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※第2四半期連結累計期間の業績予想は行っていません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ——社（社名）、除外 ——社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年3月期1Q	139,259,092株	29年3月期	139,259,092株
② 期末自己株式数	30年3月期1Q	25,798株	29年3月期	25,652株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年3月期1Q	139,233,363株	29年3月期1Q	139,233,460株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によりこれらの予想数値と異なる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	5
4. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、各種政策の効果もあって、緩やかな回復傾向にある中、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に対する懸念などから、先行きは依然として不透明な状況となっております。

当社グループの主力事業である総合エンターテインメント事業が属する余暇市場におきましては、労働環境の改善により余暇時間の増加に伴う余暇市場への参加人口が回復傾向にある中、ゲームセンターなどの娯楽業では依然として効果が限定的です。

また、第2の主力事業である不動産事業におきましても、2020年を睨んだ様々な建築プロジェクトや住宅取得に係る各種税制措置が図られるなど、好材料が見受けられる一方で、直近の住宅着工件数の動向では市況の伸びが鈍化しており、当社が属する各事業における市況環境においては引き続き注視が必要な状況となります。

このような中、主力事業である総合エンターテインメント事業において既存店で苦戦しているものの、VRエンターテインメント施設の「VR PARK TOKYO」に関連した取り組みを積極的に実施したほか、コラボカフェやカラオケ等のコンテンツ部門において、引き続きコラボ企画を多数実施いたしました。

また、不動産事業および商業施設建築事業においても、新規案件の取得や取扱い件数の増加による売上強化に努めており、堅調に推移しております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における業績は、売上高4,597百万円(前年同四半期比△18.1%)、営業利益36百万円(前年同四半期比△86.2%)、経常利益30百万円(前年同四半期比△87.2%)、親会社株主に帰属する四半期純利益12百万円(前年同四半期比△85.2%)となりました。

なお、前年同四半期比においては、当社の連結子会社であった株式会社ブレイクの全株式を平成29年3月31日付で譲渡したことも影響しております。

セグメント別の業績は、次の通りであります。

<セグメント別概況>

〔総合エンターテインメント事業〕

主力ジャンルであるメダルゲームにおいて、GW期間に大型メダルイベントを実施したほか、クレーンゲームにおいては、TVアニメ「BanG Dream!」(バンドリ!)との全店コラボイベントによる集客施策に加え、顧客ニーズに合わせた人気景品などの入替も積極的に実施し、消費意欲を刺激する施策により売上強化を図りました。

また、VRエンターテインメント施設「VR PARK TOKYO」では、新アトラクションの導入に加え、異業種とのコラボ企画による期間限定のVR機器の設置や、催事・イベントなどへのVR機器のレンタル開始により新規顧客層の獲得を図り、売上強化に努めました。

しかしながら、「VR PARK TOKYO」やコラボ店舗は好調に推移したものの、一部店舗の閉店やメダルゲームおよびクレーンゲームでの稼働が伸び悩んだことによる影響を受け売上・利益面共に軟調に推移いたしました。

以上の結果、売上高2,606百万円(前年同四半期比△25.2%)、セグメント利益136百万円(前年同四半期比△55.0%)となりました。

ご参考：平成30年3月期6月度末時点における既存店売上高前年比 ※1 (単位：%)

	4月	5月	6月	第1Q	7月	8月	9月	第2Q	上半期
既存店売上高前年比	87.7	88.7	95.1	90.4	—	—	—	—	—

(総店舗数：45店舗 既存店舗数：44店舗)

※1 閉店店舗を除き、開店から13ヵ月以上経過した店舗を「既存店」としております。

当第1四半期連結累計期間における出店および閉店の状況におきましては、平成29年4月に「アドアーズ西船橋店」と「アドアーズ一宮店」を閉店しており、当第1四半期決算短信発表時点における総店舗数は45店舗となります。

〔不動産事業〕

(一戸建分譲部門)

営業拠点を拡大したことにより取扱い件数が増加したことに加え、得意とする既存エリアを中心に販売が伸び、売上・利益面共に好調に推移いたしました。

(不動産アセット部門)

保有不動産の安定した賃料収入により、堅調に推移いたしました。

以上の結果、売上高1,635百万円(前年同四半期比+26.1%)、セグメント利益86百万円(前年同四半期比+179.4%)となりました。

〔商業施設建築事業〕

引き続き得意とする設計案件を積極的に獲得したほか、施工案件の完成工事売上が計上できたことにより堅調に推移した結果、売上高304百万円(前年同四半期比△62.5%)、セグメント利益17百万円(前年同四半期比△56.4%)となりました。

なお、前年同四半期比におきましては、前期のような期ズレによる大型施工案件の進行基準に基づく売上計上がなかったことによる影響を受けております。

〔店舗サブリース事業〕

引き続き株式会社オリーブスパ(以下「オリスパ」と言います。)との連携による事業活動を行った結果、売上高46百万円(前年同四半期比—%)、セグメント利益8百万円(前年同四半期比—%)となりました。なお、同事業は前第2四半期連結会計期間より開始しております。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結累計期間末の資産につきましては、前連結会計年度末に比べて132百万円増の21,903百万円となりました。これは主として借入等による現金及び預金の増加によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べて258百万円増の12,315百万円となりました。これは主として長期借入金の増加によるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べて126百万円減の9,588百万円となりました。これは主として配当金の支払によるものであります。

この結果、自己資本比率は43.7%（前連結会計年度末は44.6%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期連結累計期間におきましては、新たに開始した各事業における事業基盤の強化に加え、平成29年6月27日に開催した当社第50回定時株主総会でご承認いただいております、平成29年10月1日を効力発生日とした持株会社体制への移行に向けた準備を進めており、積極的なM&Aの実施による機動的な事業再編や経営資源の最適配分により、引き続き当社グループの収益拡大および企業価値の向上に努めてまいりました。

〔総合エンターテインメント事業〕

当社は、平成29年12月25日で設立から50周年を迎えるにあたり、引き続き「Smiles for the Future」をキャッチフレーズにした様々なイベント施策を展開してまいりますが、感謝と感慨をもって、これから先の人々も笑顔にすべく、情熱をもって“遊び”に取り組んでまいります。

また、VRエンターテインメント施設の「VR PARK TOKYO」など、当社が運営する店舗の強みである好立地を最大限に活かした新業態の開発や、流行やニーズを反映した新サービスの提供により既存ゲームに捉われない新たな取り組みを積極的に実施してまいります。「VR PARK TOKYO」では、運営で培ったノウハウを活かしたVR施設の多店舗展開、大規模VR施設などの開設を推し進めることで、VR機器の販売やレンタルなども含めた事業の底上げを図り、収益の強化に努めてまいります。

コンテンツ関連部門におきましては、引き続き人気アニメやゲームコンテンツとのコラボ企画を多数実施するだけでなく、コラボ企画によって培ったライセンサーとのリレーションを活用し、新たなコンテンツ関連事業の拡大や、自社コンテンツの開発を目指すことで、総合エンターテインメント事業の業容および収益の拡大に努めてまいります。

〔不動産事業〕

一戸建分譲部門におきましては、前期に開設した「千里中央営業所」による新たな市場の開拓に加え、既存の東京本社・大阪支店・横浜支店の各拠点における営業力の強化により、事業の拡大を図ってまいります。

不動産アセット部門におきましても、引き続き運用・保有の両面にわたり収益不動産を手掛けていくことで、収益の拡大を図ってまいります。

〔商業施設建築事業〕

キーノート株式会社の強みであるデザイン力や営業ノウハウなどをさらに高めることで、新たな商業施設の設計・施工案件の獲得を積極的に図り、収益性の高い案件の獲得を目指してまいります。

〔店舗サブリース事業〕

当社が首都圏での店舗運営の中で培ってきた店舗開発ノウハウや情報網を活かし、引き続きオリスパとの連携を密に図り、業容の拡大を目指してまいります。

本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づくものであるため、実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる可能性があります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

第1四半期連結会計期間において、当社は吸収分割の方式による持株会社体制へ移行することを目的として「アドアーズ分割準備株式会社」を新たに設立し、連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,593,472	5,918,717
受取手形及び売掛金等	202,771	159,416
未成工事支出金	122,995	4,980
リース投資資産	237,294	233,906
販売用不動産	3,059,035	2,952,475
仕掛販売用不動産	1,435,845	1,658,388
商品	2,039	4,857
貯蔵品	144,086	125,577
前払費用	558,423	609,379
未収入金	113,302	14,643
前渡金	47,082	42,385
繰延税金資産	113,416	113,338
その他	119,276	153,437
貸倒引当金	△20,000	—
流動資産合計	11,729,041	11,991,504
固定資産		
有形固定資産		
アミューズメント施設機器(純額)	901,339	889,262
建物及び構築物(純額)	1,984,752	1,932,327
工具、器具及び備品(純額)	45,024	46,119
機械装置及び運搬具(純額)	845	1,321
リース資産(純額)	1,635	1,427
土地	152,875	152,875
建設仮勘定	2,503	15,009
有形固定資産合計	3,088,977	3,038,343
無形固定資産		
借地権	1,644,763	1,644,763
ソフトウェア	19,479	17,972
その他	607	16,807
無形固定資産合計	1,664,850	1,679,543
投資その他の資産		
投資有価証券	38,666	39,449
出資金	19,096	11,536
長期前払費用	127,984	99,960
敷金及び保証金	4,982,232	4,895,988
破産更生債権等	85,276	84,104
繰延税金資産	10,702	10,236
その他	145,640	186,415
貸倒引当金	△121,018	△133,093
投資その他の資産合計	5,288,580	5,194,596
固定資産合計	10,042,408	9,912,483
資産合計	21,771,449	21,903,988

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金等	713,333	467,863
短期借入金	369,162	688,210
1年内返済予定の長期借入金	2,329,024	2,058,511
1年内償還予定の社債	111,760	171,760
未払金	952,576	923,334
未払費用	63,881	61,809
未払法人税等	136,516	39,382
前受金	175,402	163,824
預り金	73,682	78,870
未成工事受入金	35,532	26,234
株主優待引当金	34,765	38,554
その他	39,109	34,444
流動負債合計	5,034,747	4,752,799
固定負債		
社債	493,240	723,240
長期借入金	4,969,735	5,357,532
長期未払金	267,845	207,104
預り保証金	450,660	442,743
資産除去債務	775,270	775,270
繰延税金負債	50,928	49,838
その他	14,508	7,260
固定負債合計	7,022,189	7,562,989
負債合計	12,056,937	12,315,788
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,405,000	4,405,000
資本剰余金	4,393,440	4,393,440
利益剰余金	901,095	774,258
自己株式	△2,877	△2,895
株主資本合計	9,696,657	9,569,804
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,354	6,895
その他の包括利益累計額合計	6,354	6,895
新株予約権	11,500	11,500
純資産合計	9,714,512	9,588,199
負債純資産合計	21,771,449	21,903,988

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	5,611,845	4,597,142
売上原価	4,768,516	3,984,589
売上総利益	843,328	612,552
販売費及び一般管理費	577,423	575,931
営業利益	265,905	36,620
営業外収益		
受取利息	331	663
受取配当金	831	887
広告協賛金	14,486	21,412
その他	6,884	15,854
営業外収益合計	22,534	38,817
営業外費用		
支払利息	34,927	32,571
その他	17,653	12,704
営業外費用合計	52,581	45,276
経常利益	235,858	30,161
特別利益		
固定資産売却益	13,192	420
その他	8,767	—
特別利益合計	21,960	420
特別損失		
固定資産売却損	1,169	5,090
固定資産除却損	1,173	—
投資有価証券評価損	110,740	—
その他	—	1,371
特別損失合計	113,082	6,461
税金等調整前四半期純利益	144,736	24,119
法人税等	60,716	11,722
四半期純利益	84,020	12,397
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	84,020	12,397

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
四半期純利益	84,020	12,397
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△590	541
その他の包括利益合計	△590	541
四半期包括利益	83,429	12,938
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	83,429	12,938

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額(注) 3
	総合エンタ ーテインメ ント事業	不動産事業	商業施設 建築事業	店舗サブ リース事業	計				
売上高									
外部顧客 への売上 高	3,484,531	1,296,632	812,335	—	5,593,499	18,345	5,611,845	—	5,611,845
セグメン ト間の内 部売上高 又は振替 高	—	—	5,683	—	5,683	—	5,683	△5,683	—
計	3,484,531	1,296,632	818,018	—	5,599,183	18,345	5,617,528	△5,683	5,611,845
セグメント 利益	304,195	30,812	39,856	—	374,864	5,560	380,425	△114,520	265,905

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、パチスロ機周辺機器レンタル事業・ゴルフ事業であります。

2. セグメント利益の調整額△114,520千円は、主として各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. 当第1四半期連結会計期間より、報告セグメント「店舗サブリース事業」を新たに追加しておりますが、実績はございません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額(注) 3
	総合エンタ テインメ ント事業	不動産事業	商業施設 建築事業	店舗サブ リース事業	計				
売上高									
外部顧客 への売上 高	2,606,093	1,635,126	304,541	46,348	4,592,109	5,032	4,597,142	—	4,597,142
セグメン ト間の内 部売上高 又は振替 高	—	—	1,696	—	1,696	—	1,696	△1,696	—
計	2,606,093	1,635,126	306,237	46,348	4,593,805	5,032	4,598,838	△1,696	4,597,142
セグメント 利益又は損 失(△)	136,874	86,091	17,381	8,678	249,025	△279	248,745	△212,124	36,620

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、外貨両替事業であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△212,124千円は、主として各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。